

がん患者の悩み・不安に関する実態調査の結果について ～がん患者の2人に1人が「がんの情報迷子」に～

アフラック生命保険株式会社（代表取締役社長：古出 眞敏）は、20代～70代のがん患者1,000人を対象にがんの悩み・不安に関する調査を行いました。主な調査結果は以下のとおりです。

がん患者の悩み・不安に関する調査

1. 調査概要

- ・調査名称 : 「がん患者の悩み・不安に関する調査」
- ・調査時期 : 2022年7月20日（水）～7月22日（金）
- ・調査方法 : インターネット調査
- ・調査対象 : 20代～70代のステージ1以上のがん患者男女1,000人
※がんと診断されてから1年以上の現在治療中の方、またはがん治療が終了し5年以内の方

2. 主な調査結果（詳細は別紙1参照）

- (1)がん患者の悩み・不安は、「お金」に関する不安以外にも「漠然とした不安」などの心の不安が大きい。サバイバージャーニー*の過程で悩みは変化していく
- ・がんの診断前の悩み・不安は、「漠然とした不安」（33.7%）、「生活・家事全般への影響」（27.7%）といった精神面や生活面の悩み・不安が多い。一方で、お金に関する不安は、「治療費等の支出の不安」（20.9%）、「収入減への不安」（16.5%）となった。
 - ・がん告知時は、「生死に関する不安」（34.4%）、「漠然とした不安」（33.6%）が多い。
 - ・治療開始時の悩み・不安は、「痛み、副作用のつらさ」（33.4%）、「再発・転移に対する不安」（32.4%）であり、がん治療中も「再発・転移に対する不安」（35.3%）、「痛み、副作用のつらさ」（34.6%）が大きい。
 - ・がん治療終了後は「再発・転移に対する不安」（48.7%）と、がん患者はサバイバージャーニーの過程でさまざまに変化する悩みを抱えている。
- (2)悩み・不安を誰かに相談することが難しい・抵抗があると感じるがん患者が6割、一方で網羅的に相談したいとの思いも強い
- ・がん患者の約6割（60.3%）が、悩み・不安を誰かに相談することが難しい・抵抗があると感じている。
 - ・相談が難しい理由としては、がん患者の約4割が「悩みを相談すること自体に抵抗」（39.1%）を感じ、「何を相談してよいかわからない」（36.8%）という状態。
 - ・3人に1人は「相談するということが思いが至らず、ひとりで抱え込んでいる」（35.9%）。
 - ・「網羅的に悩みを相談できる先がない」（39.4%）、「誰に相談すればよいかわからない」（38.2%）など、相談先が十分でないことにも不満。
 - ・がん患者の約6割が「網羅的に」（62.2%）、「気軽に」（65.8%）相談できる場所を求めている。

(3)がん患者の2人に1人(約6割)が正しいがん情報にたどり着けない「がんの情報迷子」に

- ・「情報が多すぎて重要な情報がわからない」(59.1%)
- ・「どの情報が信用できるのか判断できない、わからない」(58.7%)
- ・「入手した情報について自分に当てはまるのかわからない」(56.8%)

(4)がん患者の約9割が「自分に合う情報にたどり着けることでがんに関する不安は軽減できる」と回答

- ・「正しい情報を得るとことで、がんに関する不安は軽減できると思う」(86.9%)
- ・「自分に合った情報にたどり着けることで、がんに関する不安は軽減できると思う」(87.9%)

*異常の指摘からがんの診断・告知を受け、治療、療養生活へと続いていく患者の人生の道りをフィッツヒュー・モラン氏の「サバイバーシップ」という考え方を元に「サバイバージャーニー」と表現しています。参考文献:「がん患者本位のエンゲージメント」を考える会著『「がん患者本位のエンゲージメント」を目指して~がん患者が社会で自分らしく生きるための3つのビジョン~』(日経BP、2021)

今回の調査を通して、がん患者の悩み・不安は、身体的・医学的なものにとどまらず、心理的・精神的、さらには就労や経済面など多様化していることが明らかになりました。また、こうした悩み・不安を網羅的に、かつ気軽に相談したいというニーズや、がん患者の2人に1人が正しいがん情報にたどり着けないと感じているなど、がんの情報に関する課題の存在も確認できました。

現在、国民の2人に1人ががんになる*1と言われ、がんの早期発見、治療技術の進歩などにより生存率も向上していることから、がん罹患後の人生も長期化しており、多くのがん患者が抱えるさまざまな悩みや不安は社会全体が認識すべき課題となっています。

「がん保険のパイオニア」として、最も長くがんと向き合い、最も多くのがんと闘う方々を応援してきた保険会社として、当社は、がんと向き合う方々を取り巻く、身体的・医学的な問題、精神的・心理的な問題、さらには就労や経済面を含めた社会的課題を包括的かつ総合的に解決するために、患者とそのご家族を中心に、医療者、職場・学校、行政、民間団体、企業などさまざまなステークホルダーが連携・協業するためのプラットフォーム「キャンサーエコシステム」の構築に取り組んでいます。

「キャンサーエコシステム」の構築は、社会と共有できる価値を創出するCSV(Creating Shared Value、共通価値の創造)経営の実践そのものであり、社会的課題の解決に向けて新たな価値を創造することで、持続的な成長を実現する企業であることを目指していきます。

なお、「キャンサーエコシステム」を体現する取り組みの一環として8月22日にく「生きる」を創るがん保険WINGS>を発売します(別紙2参照)。さらに、2023年1月(予定)からは、新たに「アフラックのよりそうがん相談サポート*2」を設置し、がん患者とそのご家族の相談窓口となることで、一人ひとりの異なる悩みに寄りそい、適切なサービスもご紹介していく予定です。

*1 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」より。年齢・性別により罹患率は異なります。

*2「アフラックのよりそうがん相談サポート」は、Hatch Healthcare 株式会社提供のサービスであり、アフラックの保険契約による保障内容ではありません。

以上

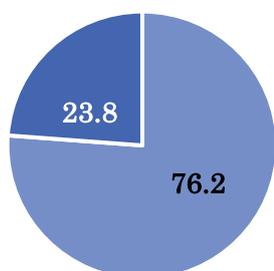
■がん患者 1,000 人に聞く、がんの悩み・不安に関する実態調査

1. 調査概要

- ・調査名称：「がん患者の悩み・不安に関する調査」
- ・調査時期：2022年7月20日（水）～7月22日（金）
- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査対象：20代～70代のステージ1以上のがん患者男女1,000人
 - ・がんと診断されてから1年以上の現在治療中の方、またはがん治療が終了し5年以内の方
 - ・20代～40代の男女各250人ずつ、50代～70代の男女各250人ずつに調査

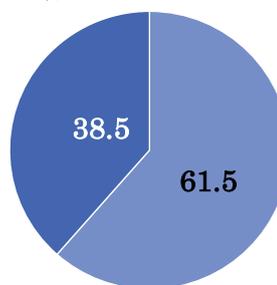
2. 回答者属性（n=1,000、単位=%）

●未既婚



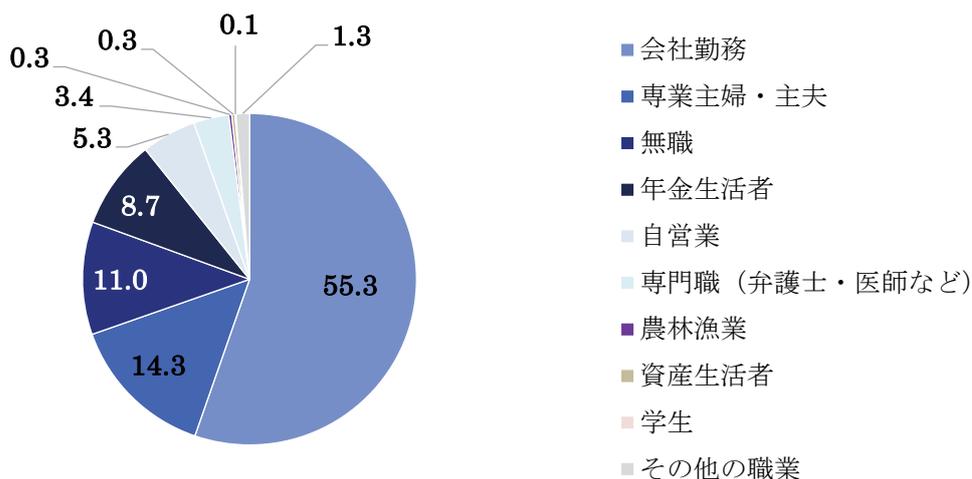
■既婚（離死別含む） ■未婚

●子どもの有無



■いる ■いない

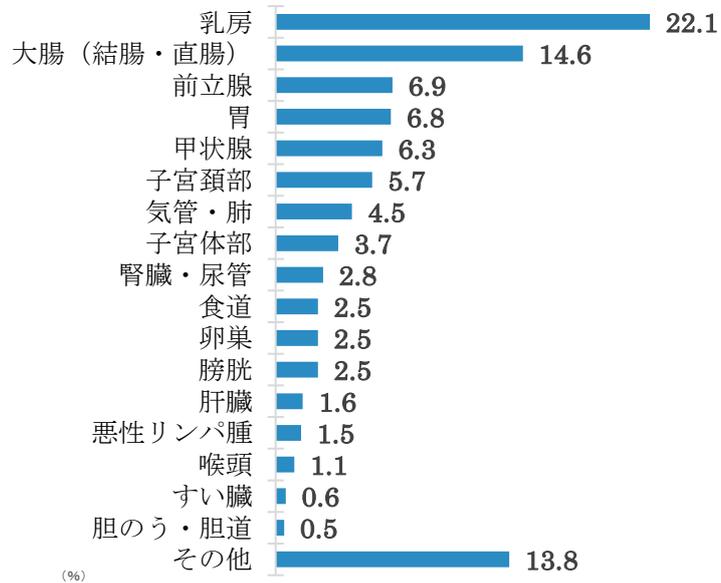
●現在の職業



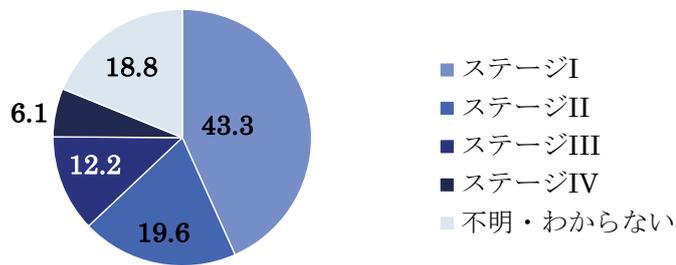
会社勤務の内訳：

「会社員（一般）」21.8%、「パート・アルバイト」15.1%、「会社員（管理職）」5.4%、「派遣社員・契約社員」5.3%、「公務員・教職員・非営利団体職員」5.2%、「経営者・役員」2.5%

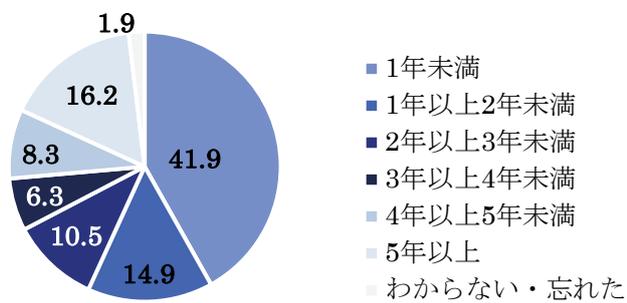
●罹患部位



●診断時のステージ



●がんの治療期間



3. がんの悩み・不安に関する調査結果

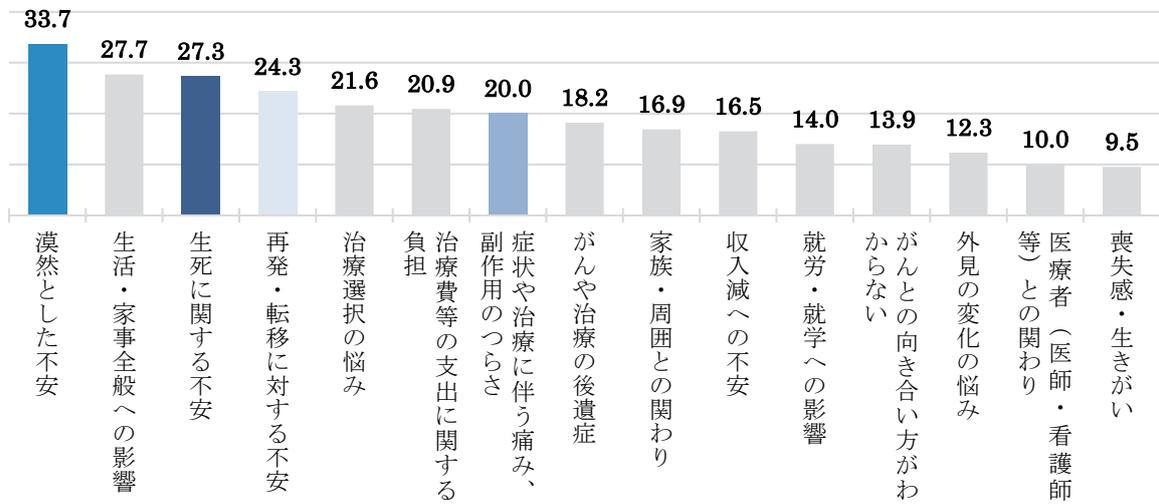
■がんの悩み・不安にはどのようなものがあるか

Q.がんの診断前、がんの告知時、治療開始時期、がん治療中、がん治療終了後、それぞれの段階でどのような悩み・不安がありましたか？（複数回答可）

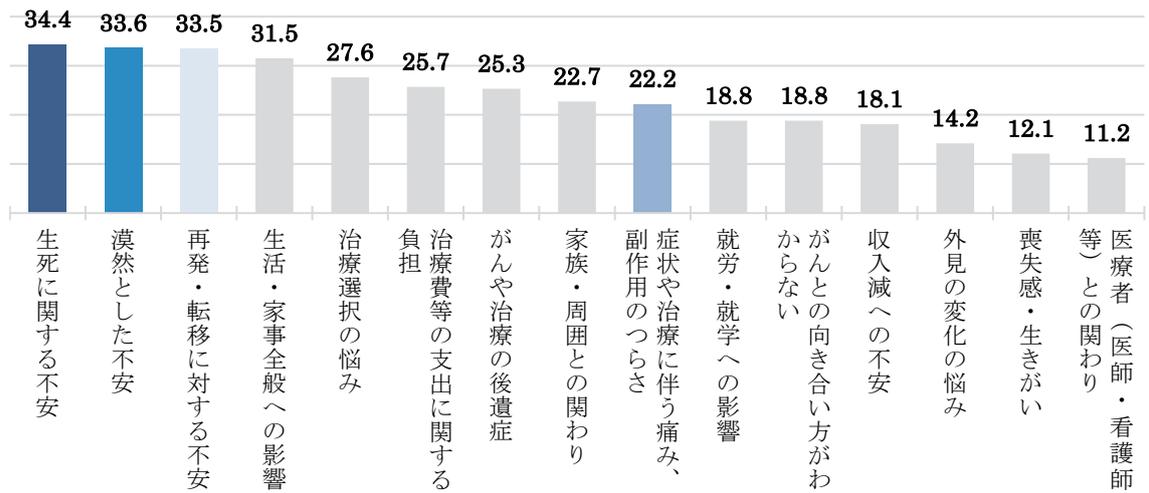
※各段階での悩み・不安を多いものから降順に並び替え、各時期の悩み・不安で最も多いものを他の段階でも色付け。

がんの診断前	がんの告知時	がんの治療開始時	がんの治療中	がんの治療終了後
漠然とした不安 33.7%	生死に関する不安 34.4%	痛み、副作用のつらさ 33.4%	再発・転移に対する不安 35.3%	再発・転移に対する不安 48.7%
生活・家事全般への影響 27.7%	漠然とした不安 33.6%	再発・転移に対する不安 32.4%	痛み、副作用のつらさ 34.6%	がんや治療の後遺症 22.1%
生死に関する不安 27.3%	再発・転移に対する不安 33.5%	漠然とした不安 28.9%	がんや治療の後遺症 27.2%	漠然とした不安 19.6%
再発・転移に対する不安 24.3%	生活・家事全般への影響 31.5%	がんや治療の後遺症 27.2%	漠然とした不安 26.6%	生活・家事全般への影響 14.0%
治療選択の悩み 21.6%	治療選択の悩み 27.6%	生活・家事全般への影響 26.4%	生活・家事全般への影響 23.9%	痛み、副作用のつらさ 12.1%
治療費等の支出負担 20.9%	治療費等の支出負担 25.7%	生死に関する不安 24.7%	生死に関する不安 22.7%	生死に関する不安 11.5%
痛み、副作用のつらさ 20.0%	がんや治療の後遺症 25.3%	治療費等の支出負担 24.0%	治療費等の支出負担 22.6%	外見の変化の悩み 11.3%
がんや治療の後遺症 18.2%	家族・周囲との関わり 22.7%	家族・周囲との関わり 19.1%	収入減への不安 17.9%	就労・就学への影響 11.0%
家族・周囲との関わり 16.9%	痛み、副作用のつらさ 22.2%	収入減への不安 17.9%	家族・周囲との関わり 17.7%	収入減への不安 9.9%
収入減への不安 16.5%	就労・就学への影響 18.8%	就労・就学への影響 17.5%	外見の変化の悩み 17.7%	家族・周囲との関わり 9.6%
就労・就学への影響 14.0%	がんとの向き合い方がわからない 18.8%	外見の変化の悩み 16.0%	就労・就学への影響 16.5%	治療費等の支出負担 9.1%
がんとの向き合い方がわからない 13.9%	収入減への不安 18.1%	治療選択の悩み 14.8%	医療者との関わり 11.8%	喪失感・生きがい 6.8%
外見の変化の悩み 12.3%	外見の変化の悩み 14.2%	がんとの向き合い方がわからない 13.7%	治療選択の悩み 11.4%	がんとの向き合い方がわからない 4.8%
医療者との関わり 10.0%	喪失感・生きがい 12.1%	医療者との関わり 12.0%	がんとの向き合い方がわからない 10.6%	医療者との関わり 4.3%
喪失感・生きがい 9.5%	医療者との関わり 11.2%	喪失感・生きがい 10.0%	喪失感・生きがい 10.4%	治療選択の悩み 3.3%
全体 (n=1000)	全体 (n=1000)	全体 (n=1000)	全体 (n=1000)	治療終了 (n=628)

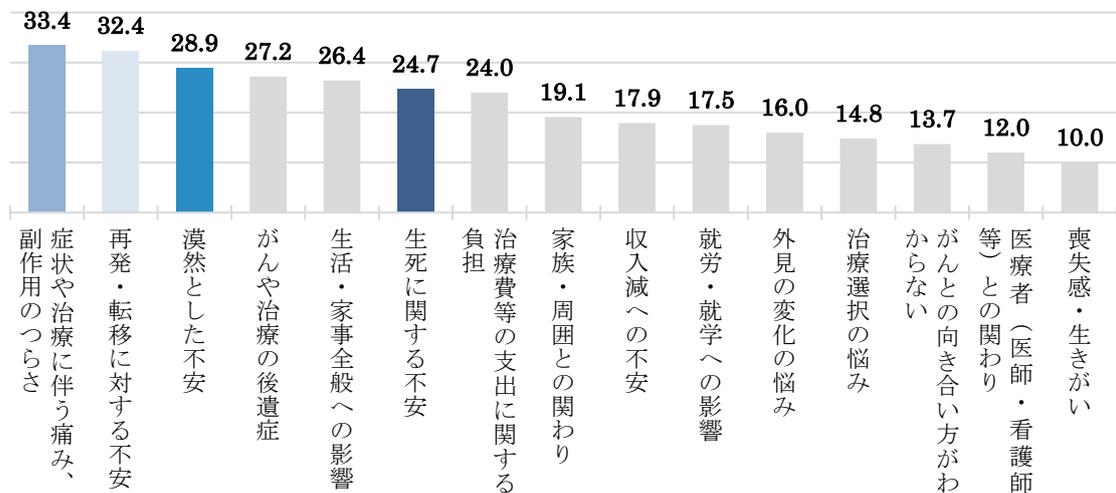
●がんの診断前 (N=1,000、単位=%)



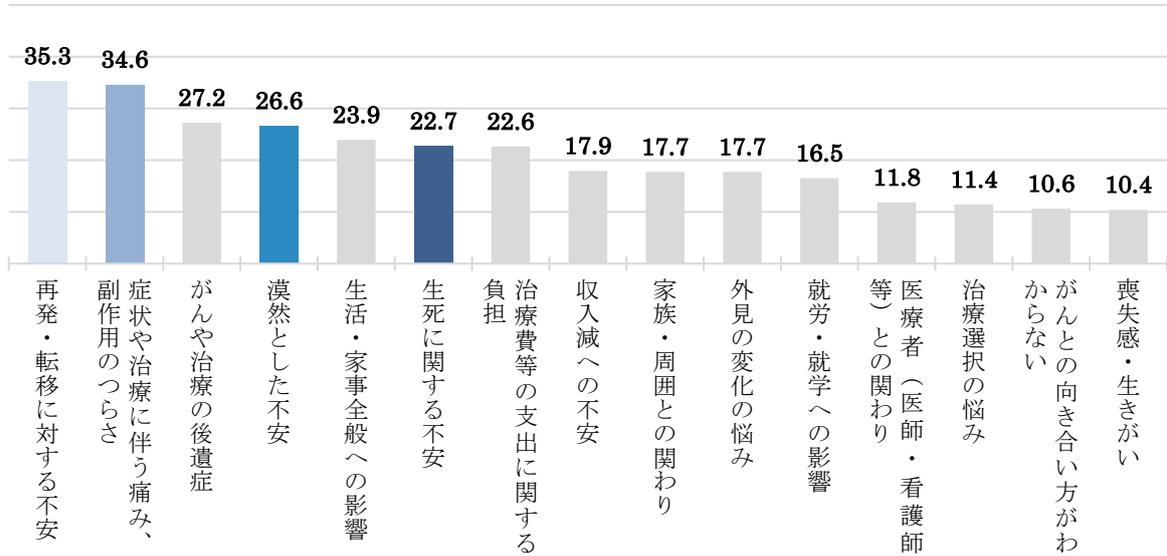
●がんの告知時 (N=1,000、単位=%)



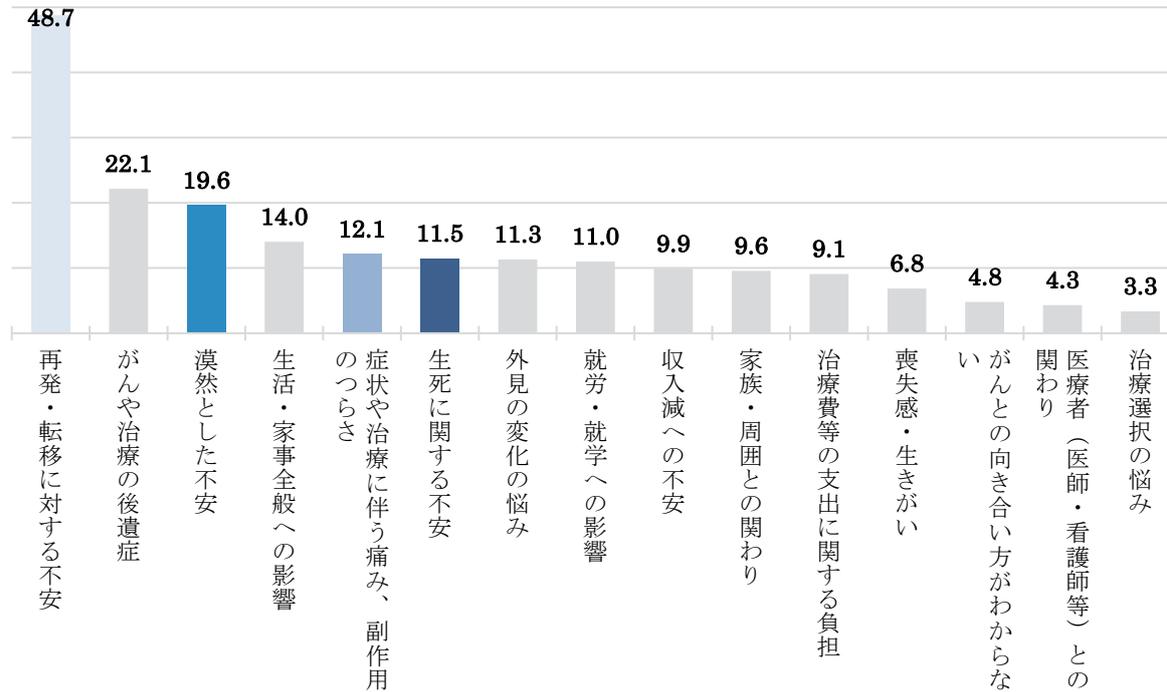
●がんの治療開始時 (N=1,000、単位=%)



●がん治療中 (N=1,000、単位=%)

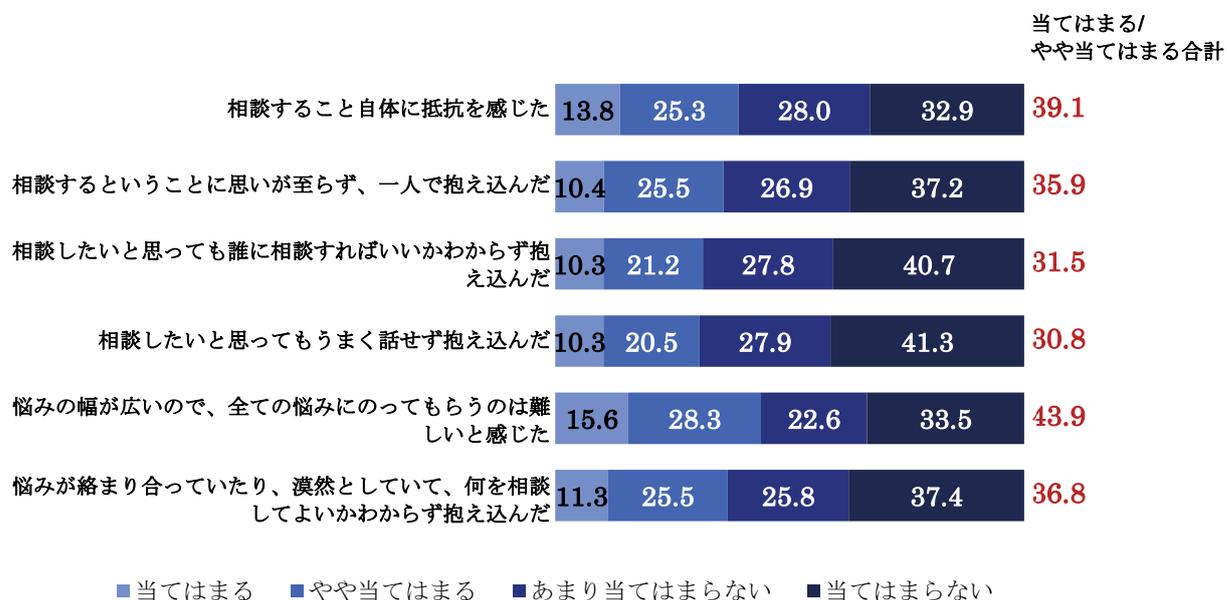


●がんの治療終了後 (N=628、単位=%)

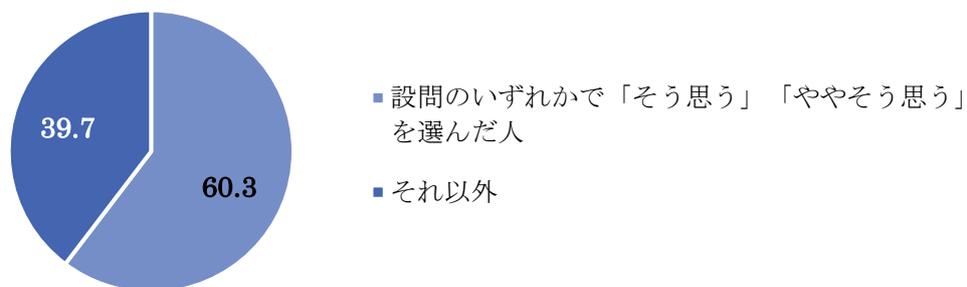


■がんの悩み・不安の相談先について

Q.がんについての悩みを誰かに相談することについて、どのように感じましたか。当てはまるものをお聞かせください。（N=1,000、単位=%）



調査対象者のうち上記のいずれかで「当てはまる」「やや当てはまる」を回答した割合。（N=1,000、単位=%）



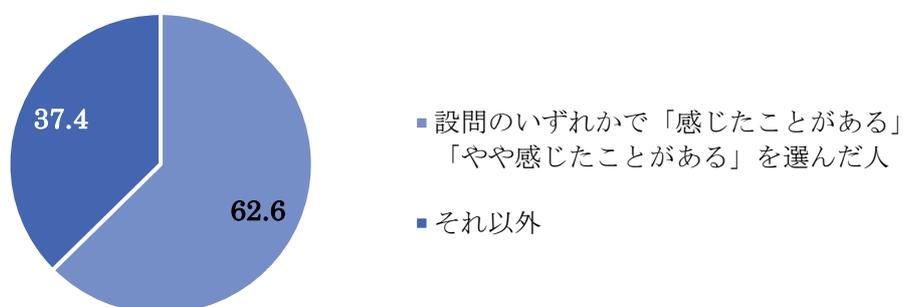
Q.がんに関する相談で不足を感じたことはありますか。
 それぞれについてお聞かせください。(N=1,000、単位=%)

感じたことがある/
 やや感じたことが
 ある合計

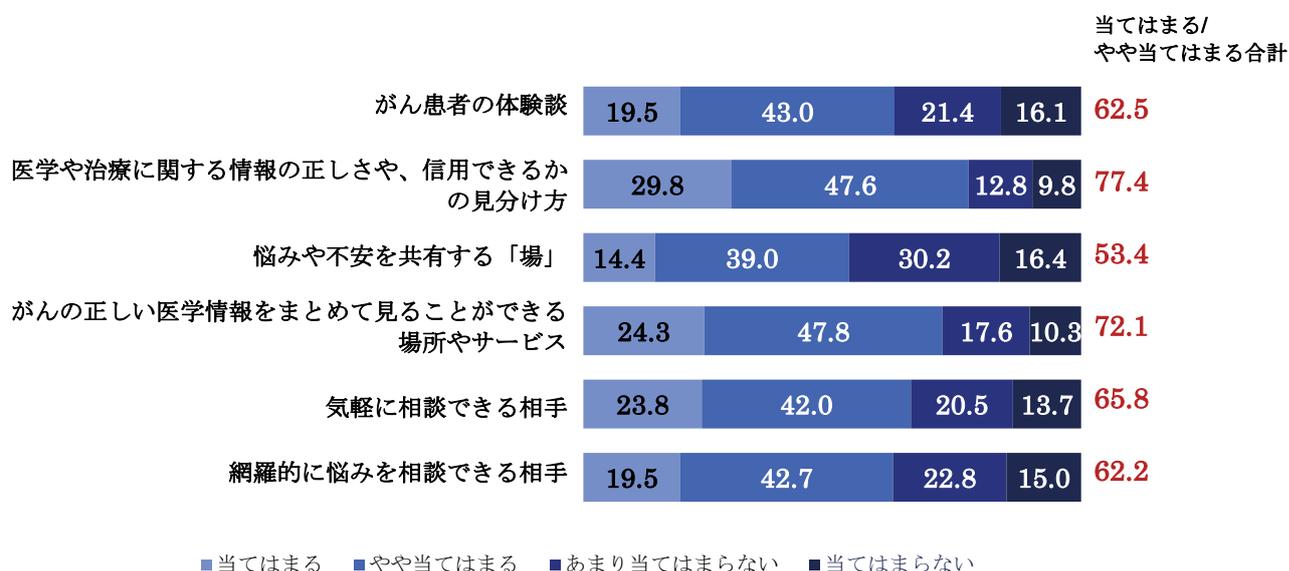


■感じたことがある ■やや感じたことがある ■あまり感じたことはない ■感じたことはない

調査対象者のうち上記のいずれかで「感じたことがある」「やや感じたことがある」を回答した割合。(N=1,000、単位=%)

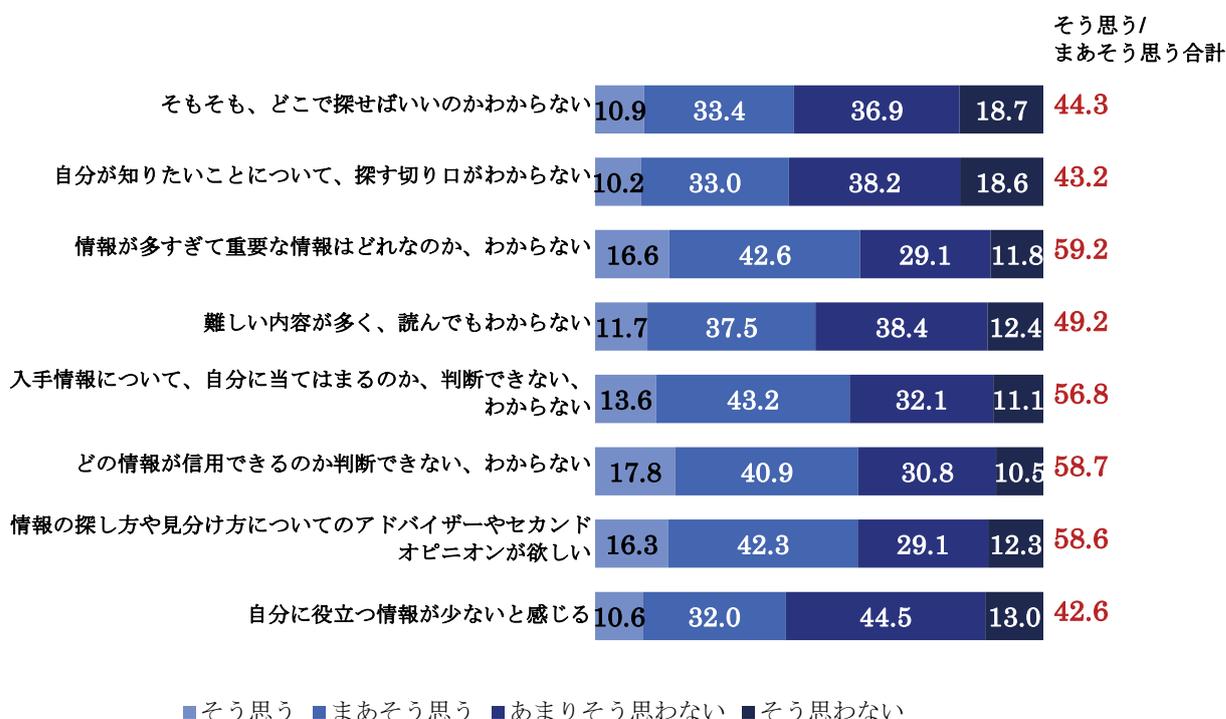


Q.がん治療に関する情報や相談先について求めることは何ですか。
それぞれについてお聞かせください。(N=1,000、単位=%)



■がん情報について

Q.がんについての情報を探す際、どのようなことを感じるがありますか。それぞれについてお聞かせください。(N=942[対象者=がん情報を探したことがある]、単位=%)



Q.情報収集や、入手した情報について困ったことはありませんか。

具体的にお聞かせください（自由記述）。

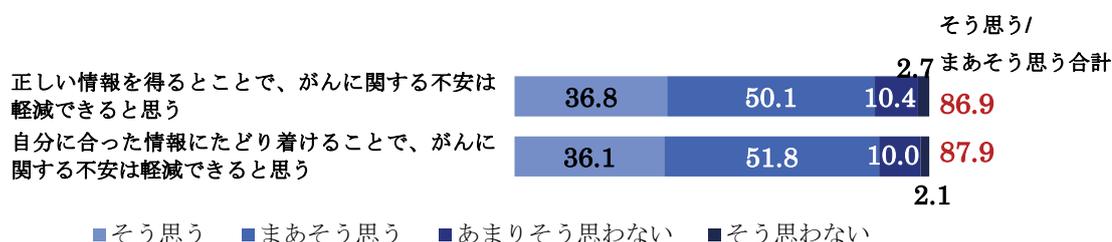
<自由記述を抜粋>

- 若年層として発症したが 30 代後半であったため、欲しい情報の内容が AYA 世代*とも子育て世代とも違う（東京都 40 歳 男性）
- 治療後の就職先や就労状況について情報がほぼなかった（埼玉県 46 歳 男性）
- ネットで見た体験談には特に術後の傷跡についての悪い情報が目立ったので、無駄に不安になった（東京都 47 歳 女性）
- どこまでが自分に合う情報なのかがわからなかった。必要ではない部分も入手して、時間がかかった（東京都 48 歳 女性）
- 不安になっている時は、良いと書かれている物に飛びついてしまうから、ネットの情報に騙されやすい（石川県 52 歳 女性）
- 何処を窓口にして、アクションを起こせばいいのかわかりにくかった（広島県 56 歳 女性）
- いろいろな意見があるとどれを信じたらよいか、同じ環境の人を見つけづらかった（神奈川県 68 歳 男性）

*AYA 世代=Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の頭文字をとったもので、主に思春期（15 歳～）から 30 歳代までの世代を指します。

Q.がん治療についての情報収集について、どのように感じていますか。

それぞれについてお聞かせください。（N=1,000、単位=%）



以上

2022年8月5日



＜「生きる」を創るがん保険 WINGS＞の発売について

アフラック生命保険株式会社（代表取締役社長：古出 眞敏）は、最新のがん治療保障とがんの悩みや不安の解消をサポートするサービスを組み合わせた新商品＜「生きる」を創るがん保険 WINGS＞を8月22日に発売します。

人生100年時代ともいわれる超高齢社会において、がんと診断される人が増加している一方で、医療の進歩により生存率は向上しており、がん患者は長く続く治療や治療後の生活の中で、多種多様な問題や悩み、不安に直面しています。

こうしたなか、当社は、がんと共生という社会的課題の解決にむけて、患者とそのご家族を中心として、医療者、職場など様々なステークホルダーが連携・協業するためのプラットフォーム「キャンサーエコシステム」の構築に取り組んでいます。

このたび、当社はその取り組みの一環として＜「生きる」を創るがん保険 WINGS＞を発売します。本商品は、がんと診断される前の精密検査費用やがんゲノムプロファイリング検査費用に加え、患者申出療養として実施された療養など、最新治療の保障に加えて早期発見・早期治療を支援する保障も提供します。

さらに、2023年1月（予定）から新たに「アフラックのよりそうがん相談サポート*」を設置し、がん患者とご家族の相談窓口となることで、一人ひとりの異なる悩みに寄りそい、適切なサービスをご紹介します。

当社は「がんに苦しむ人々を経済的苦難から救いたい」という想いのもと、1974年の創業以来、がん保険を通して多くのお客様に安心をお届けするとともに、がん保険のパイオニアとして、最も長くがんと向き合い、最も多くのがんと闘う方々を応援してきました。当社は「生きる」を創るリーディングカンパニーへの飛躍に向け、がんにまつわる様々な社会的課題の解決に取り組むと同時に、企業価値のさらなる向上と持続的な成長を目指してまいります。

<「生きる」を創るがん保険 WINGS>の特長

- ① **最新治療の保障に加え、がんの早期発見・早期治療をサポートする保障の提供**
 - ✓ がん治療に対する充実した保障に加え、がんと診断される前の精密検査やがんゲノムプロファイリング検査を保障
 - ✓ 「先進医療」「患者申出療養」として実施された療養や保険外診療による経済的負担を保障
- ② **がんに関する様々な問題、悩みの解消をサポートするサービスの提供**
 - ✓ 「アフラックのよりそうがん相談サポート*」により、本人とご家族の抱える不安や悩みを傾聴し、悩みや状況に応じた信頼できるサービス・情報を提供
- ③ **より多くの方にご加入いただけるがん保険の実現**
 - ✓ 特定のがんの罹患者またはその疑いのある方に対して、特定のがんを不担保にして保障を提供することで、引受基準を緩和し、今まで以上に多くの方が検討しやすいがん保険を実現

*「アフラックのよりそうがん相談サポート」は、Hatch Healthcare 株式会社が提供するサービスであり、アフラックの保険契約による保障内容ではありません。

I.<「生きる」を創るがん保険 WINGS>の商品特長

【特徴1】

最新治療の保障に加え、がんの早期発見・早期治療をサポートする保障の提供

1. ポイント

<「生きる」を創るがん保険 WINGS>では、<生きるためのがん保険 Days1 ALL-in>に、「がん特定治療保障特約」「がん要精検後精密検査保障特約」の新設特約を付加可能とし、「がん治療保障特約」「がん先進医療特約」の改定を行うことで、より充実した保障を提供することが可能となりました。

 生きるためのがん保険Days1 ALL-in		 「生きる」を創るがん保険 WINGS	
主契約/特約	給付金名	主契約/特約	給付金名
主契約	診断給付金	主契約	診断給付金
	入院給付金		入院給付金
	通院給付金		通院給付金
がん治療保障特約	治療給付金	 がん治療保障特約〔2022〕  がん特定治療保障特約	治療給付金 特定保険外診療給付金 がんゲノムプロファイリング検査給付金
特定診断給付金特約	特定診断給付金	特定診断給付金特約	特定診断給付金
診断給付金複数回支払特約〔2018〕	複数回診断給付金	診断給付金複数回支払特約〔2018〕	複数回診断給付金
特定保険料払込免除特約	—	特定保険料払込免除特約	—
外見ケア特約	外見ケア給付金	外見ケア特約	外見ケア給付金
がん先進医療特約〔2018〕	がん先進医療給付金	 がん先進医療・患者申出療養特約  がん要精検後精密検査保障特約	がん先進医療・患者申出療養給付金 がん先進医療・患者申出療養一時金
	がん先進医療一時金		要精検後精密検査給付金

2. 新設・改定特約の保障内容

(a) がん治療保障特約〔2022〕（改定）

保険期間「終身」を新たに加え、手術・放射線治療に対する支払限度を無制限に改定します。

給付金名称	支払事由	支払限度	保険期間
治療給付金	〈がん〉〈上皮内新生物〉の治療を直接の目的とするつぎの①から④のいずれかに該当したとき ①所定の手術 ②所定の放射線治療（電磁波温熱療法を含む） ③所定の抗がん剤治療・ホルモン剤治療*1 ④所定の緩和療養	支払事由に該当する月につき1回 <通算支払限度> ①②の場合：無制限 ③④のみ該当する場合：すべての保険期間を通じて60回*2	終身 または 10年

*1 ホルモン剤治療のみを受けた月は特約給付金額の50%の支払となります。

*2 抗がん剤またはホルモン剤治療、緩和療養を受けた月に、手術または放射線治療を受けた場合は、支払限度の通算回数には含めません。また、ホルモン剤治療のみを受けた月は通算の支払回数のうち0.5回分として計算します。

(b) がん特定治療保障特約（新設）

保険適用外の診療やがんゲノムプロファイリング検査を保障します。

給付金名称	支払事由	支払限度	保険期間
特定保険外診療給付金	〈がん〉の治療を直接の目的として、がん診療連携拠点病院等で、特定保険外診療によって、つぎの①から③のいずれかを受けたとき ①手術 ②放射線治療 ③抗がん剤治療・ホルモン剤治療	支払事由に該当する月につき1回 すべての保険期間を通じて12回	10年
がんゲノムプロファイリング検査給付金	〈がん〉の治療を直接の目的とする所定のがんゲノムプロファイリング検査を受けたとき	支払事由に該当する月につき1回	

(c) がん先進医療・患者申出療養特約（改定）

「先進医療」に加え、「患者申出療養」の経済的負担も保障します。

給付金名称	支払事由	支払限度	保険期間
がん先進医療・患者申出療養給付金	〈がん〉の診断や治療の際に所定の先進医療または患者申出療養を受けたとき	すべての保険期間を通算して 2,000万円	10年
がん先進医療・患者申出療養一時金	がん先進医療・患者申出療養給付金が支払われる療養を受けたとき	1保険年度に1回まで	

(d) がん要精検後精密検査保障特約（新設）

所定のがんの検診で「要精密検査」の判定を受けた後、精密検査を受けた場合に給付金をお支払いします。

給付金名称	支払事由	支払限度	保険期間
要精検後精密検査給付金	つぎのいずれにも該当したとき ①(ア)から(オ)のいずれかのがんについて、所定のがんの検診を受診し医師により要精密検査の判定を受けたこと (ア)胃がん (イ)子宮頸がん（女性のみ） (ウ)肺がん (エ)乳がん（女性のみ） (オ)大腸がん ②所定のがんの検診を受けた翌日から180日以内に、①の判定に基づき、治療を目的として、入院または通院により公的医療保険制度において保険給付の対象となる精密検査を受けたこと	(ア)から(オ)の検診ごとに1保険年度に1回 すべての保険期間を通じて20回	10年

【特徴2】

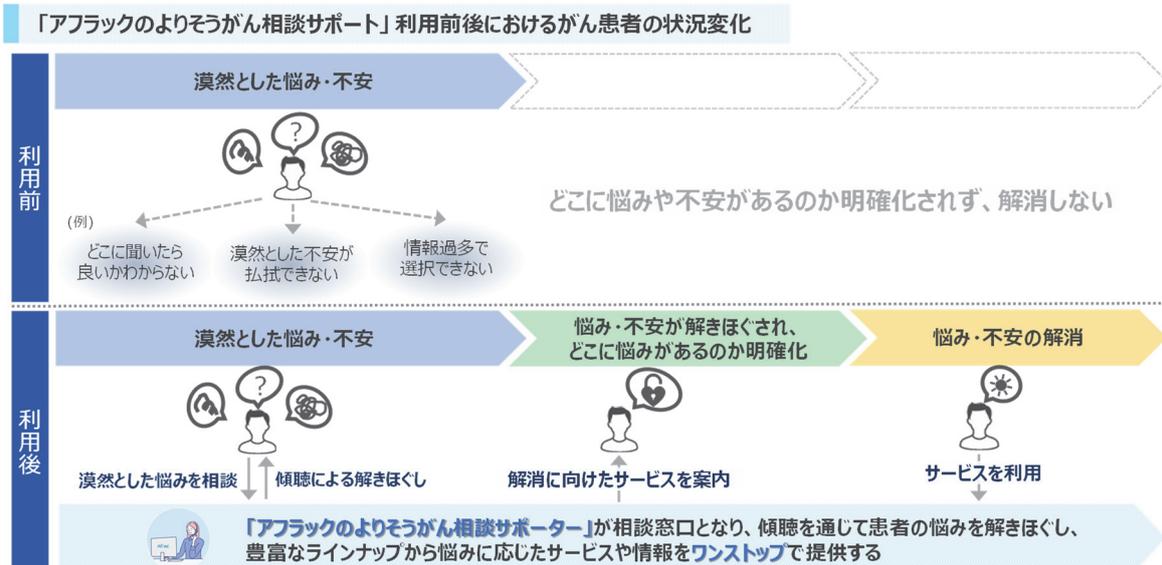
がんに関する様々な問題、悩みの解消をサポートするサービスの提供

1. ポイント

豊富な経験と公的な専門資格を有した「アフラックのよりそうがん相談サポーター」が相談窓口となり、がん患者やご家族の悩みを傾聴し、状況に応じた各種サービスをご案内することで、悩み・不安の解消をサポートします。

これに伴い、すでに「ダックのがん治療相談サービス」で提供しているサービスは、「アフラックのよりそうがん相談サポート」からご案内するサービスの一部になります。

<サービス概要イメージ>



*1 「アフラックのよりそうがん相談サポート」は、Aflac Incorporatedの関連会社であるHatch Healthcare株式会社が提供するサービスであり、アフラックの保険契約による保障内容ではありません。

サービスの概要



※「アフラックのよりそうがん相談サポート」で案内する各種サービスは、追加・変更または中止される場合があります。また、サービス毎に利用条件が異なります。

2. 利用対象

＜「生きる」を創るがん保険 WINGS＞及び所定のがん保険にご契約中の被保険者

※ 被保険者本人のがんに関する相談について、家族（原則配偶者及び一親等親族で、被保険者の同意がある方）の利用可

アフラックのよりそうがん相談サポート利用対象商品
<ul style="list-style-type: none">・ 「生きる」を創るがん保険 WINGS・ 生きるためのがん保険 Days1 ALL-in・ 生きるためのがん保険 Days1・ 新 生きるためのがん保険 Days・ 生きるためのがん保険 Days*・ がん保険 f（フォルテ）*・ 21世紀がん保険*・ スーパーがん保険*・ 新がん保険*・ 生きるためのがん保険 寄りそう Days・ 優しいがん保険*・ 生きるためのがん保険 Days1 プラス*・ 新 生きるためのがん保険 Days プラス*・ 生きるためのがん保険 Days プラス*・ ご契約者のためのがんの保険 f（フォルテ）*

* 所定の条件を満たした場合にサービス利用対象となります。

3. 提供会社

Hatch Healthcare 株式会社

4. サービス提供開始予定日

2023年1月23日

【特長 3】

より多くの方にご加入いただけるがん保険の実現

1. ポイント

がんに罹患されたことがある方は、これまでは、がん経験者向け専用商品でご加入可能な場合を除き、がん保険にご加入いただけませんでした。また、がんの疑いのある方も、がん保険のご加入が難しい場合がありました。

今回、がん保険のパイオニアとして、より多くの方々に充実した保障をお届けできるように、一部のがんについては条件付きで最新のがん保険にご加入いただけるようにします。

2. 特定疾病不担保の導入

所定のがんにおける症状悪化のリスクが低い状態、もしくはそれらのがんの疑いの状態においては、該当のがん・上皮内新生物を不担保とすることにより、標準体保険料率での引受を可能とします*。

*告知内容等によっては特別保険料率での引受となる場合があります。

3. 対象となる疾病

- 前立腺の悪性新生物・上皮内新生物
- 甲状腺の悪性新生物・上皮内新生物
- 子宮頸部の悪性新生物・上皮内新生物（異形成を含む）

II. 推奨販売プランと保険料例

新設または改定となる特約を販売プランに組み込むことで、がん診断前から診断後まで幅広く備える保障を提供します。

(推奨販売プラン)

		69歳以下向け	70歳以上向け
主契約	診断給付金	50万円	50万円
	入院給付金	1万円	1万円
	通院給付金	1万円	1万円
特約	がん治療保障特約〔2022〕	10万円(5万円*) *ホルモン剤治療の給付金額	6万円(3万円*) *ホルモン剤治療の給付金額
		保険期間:終身	保険期間:終身
	がん特定治療保障特約	あり	あり
	特定診断給付金特約	50万円	50万円
	診断給付金複数回支払特約〔2018〕	50万円	50万円
	がん先進医療・患者申出療養特約	あり	あり
	がん要精検後精密検査保障特約	あり	あり
特定保険料払込免除特約	あり/なし	あり/なし	
オプション		オプション	オプション
特約	外見ケア特約	あり	あり

(販売推奨プラン保険料例)

<個別・月払・定額タイプ・標準体保険料率・解約払戻金なしタイプ>

69歳以下向け				70歳以上向け			
性別	年齢	保険料		性別	年齢	保険料	
		保険料払込免除あり	保険料払込免除なし			保険料払込免除あり	保険料払込免除なし
男性	20歳	2,848円	2,695円	男性	70歳	17,594円	14,605円
	30歳	3,928円	3,704円		75歳	19,952円	16,544円
	40歳	5,733円	5,318円		80歳	21,694円	18,239円
	50歳	8,653円	7,793円	女性	70歳	9,010円	8,070円
	60歳	13,575円	11,683円		75歳	9,767円	8,734円
20歳	3,169円	2,982円	80歳		10,637円	9,509円	
女性	30歳	4,269円	3,962円				
	40歳	5,850円	5,304円				
	50歳	7,064円	6,347円				
	60歳	8,542円	7,645円				